

事業の実績	<p>令和3年10月：熊本中央高等学校にてアンケート調査を実施。</p> <p>11月：アンケート結果を踏まえ、高校で実施する授業計画の作成を行う。</p> <p>12月：13日（月）に3年生、16日（木）に2年生に第1回目の授業を熊本中央高等学校にて実施する。それぞれに大学生1名が参加。</p> <p>令和4年 1月：第1回目の授業の振り返りと次回に向けての打ち合わせの実施。</p> <p>2月：第2回目の授業を9日（水）にリモートで実施。</p> <p>(*対面での実施を予定していたが、高校側の意向により急遽リモート開催となる。)</p> <p>3月：第3回目の授業を15日（火）にリモートで実施。</p>
具体的な成果	<p>アンケート調査は、熊本中央高等学校の古川教諭の協力により、高校3年生と2年生の福祉リビングコースの生徒に実施した。その結果、進路選択において高校3年生での高大連携では時期が遅いことが明確となったため、その後予定していた授業の内容と回数を当初計画より変更して実施した。</p> <p>まず、3年生に対しては、既に次の進路が決まっている者が大半だったため、福祉系大学への進学に限定せず、「福祉の考え方」や「福祉のこころ」について理解してもらうような内容の授業を1回完結で実施した。その結果、福祉のイメージが介護や高齢者、施設より、多少広がったと思われる。</p> <p>次に2年生に対しては、進路についてまだ曖昧なこともあり、ここに高大連携の意義があると考え、現在の福祉コースでの学びを踏まえた上で、福祉はたいへん広いこと。そして、大学では「ソーシャルワーク」を学ぶことなどを説明した。その上で残りの授業では、「5年後にどうなっていたいか」、また、そのためには「残りの高校生活で何を学び、身につけたいか」を考える授業を展開した。さらに、高校生が自ら考えるきっかけづくりとして、本学の学生2名が入り、当時高校で考えていたことと今の自分についてプレゼンを行い、1つのロールモデルとして示してもらった。結果として、高校生にとっては教員が話すより近い立場でリアリティがあり、良い反応であった。同時に、大学生にとっても自身を振り返る良い機会となり、高校生にどうすれば上手く伝わるか、プレゼンスキルの向上に役立ったと考えている。</p> <p>そして2回目の授業を受け、最後の授業（3回目）である高校生による「5年後にどうなっていたいか」のプレゼンを行ってもらった。当初対面での実施を予定していたが、今回も新型コロナウイルス感染対策のためリモート開催に変更となった。若干音声聞き取りにくいところがあったが、古川教諭のご指導の下、高校生は6グループに分かれて、これまでに作成したプレゼン資料を基に生き活きと発表を行った。それを本学の教員、学生他が見守り、発表後、それぞれから高校生にエールも込めてコメントをさせていただいた。</p> <p>事業を終えての感想は、今年度初めて行った取り組みであり、予算取りの段階から十分な計画ができないまま見切り発車した感があったが、1つの目的であった福祉科に所属する高校生がどのような事を考え、高校生活を送っているかを知ることについては、少し理解できたと言える。次は、それを高大連携として、高校生の進路選択にどのように役立てていくか、あるいは本学社会福祉学部として何を提供することができるのか、古川教諭も交えて今後振り返りと反省を行い、次年度以降の福祉科教育における高大連携の方向性について、さらに考えを深め、取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>今回、教育研究支援事業の助成をいただき、このような取り組みができたことに感謝しています。ありがとうございました。</p>